

安心して学べる学校づくりのために —小学校統合における支援学級の体制づくり—

守口市立よつば小学校 たんぼぼ学級担任

(藤本香織 大久保久子 山内理 片山輝美

隈井祐紀 山脇郁子 井上加奈)

1. はじめに

平成28年4月に、守口市立大久保小学校と東小学校が統合して半年が過ぎようとしている。これまでに、大久保中学校ブロック（大久保中学校・よつば小学校）では、交流会を学期ごとに行いお互いに顔を合わせて親睦を深めてきた。

その一方で、支援学級在籍児童やその保護者にとって、学校の場所や友人関係が変化することは、不安が相当大きいことが予想されたため、統合した4月より安心して学校生活を送られるよう、前年度より教師間で様々な話し合いを行ってきた。例えば、各小学校で大切に引き継いできた支援体制の情報を交換し合ったり、支援学級の教室配置が適切であるかどうかを大久保小学校の担当教師に見学してもらったりしたことなどである。

そして、新学期が始まると、実際に児童の様子を見ながら支援学級を進めていくこととなり、全校へのよびかけやたんぼぼの会（合科）、時間割の調整や保護者との連絡帳でのやり取りなどを通して支援を行ってきた。見通しを持たせることで、スムーズに取り組めたことや、はじめて体験することに戸惑ったことなど、統合後のよつば小学校での支援体制における成果と課題について振り返ってみることとする。

2. 目的と方法

(1) **目的** 小学校統合時における支援学級在籍児童や保護者に対する支援方法をさぐる。

(2) 方法

1) 学年末引き継ぎ会

以前の交流会での写真を見ながら、児童一人一人について、支援学級で学習する教科や文化活動への参加の実態等、配慮する事柄について両学校の支援担任者で情報交換を行い、様子を共有し合った。その際、来年度に使用する予定の教室を実際に見てまわり、その場所が適切であるかどうかを検討した。

2) 教室配置の配慮と確認

全校児童が600名を超えてクラス数も18クラスとなり、元東小学校のすべての校舎を使用することとなったが、特に配慮を要する児童については、該当学年や支援学級の教室を1階に配置した。

3) 全校へのよびかけ（入学式、対面式）

入学式の後、保護者にたんぼぼ学級について紹介する時間を設けてもらった。どの児童にもそれぞれによいところがあること、児童一人一人に合った学習方法で学習していること、どんな行動にも必ず理由があり、じっくり話を聞きながら、解決方法を身につけさせていくことは、どの児童にも当てはまるということ等を中心に話をした。

また、対面式の時には、たんぼぼ学級の児童数や肢体不自由児が使っている用具、休み時間に外で遊ぶ時にビブスを着用する児童がいること等を説明し、みんなとともにがんばることや、安全面で気を付けてほしいことを伝えた。

4) たんぼぼの会 (たんぼぼの会、保護者顔合わせ、大久保中との交流会)

統合により支援学級在籍児童数が30名となった。毎週月曜日の2校時目を「たんぼぼの会」として、2クラスに分割して行っている。

たんぼぼの会では、通常学級では発表することが難しい児童たちでも、自信をもって発表できるように、「季節感を感じられる身近な話題」をテーマに設定して発言を促すようにしている。

①挨拶 (順番に日直を担当する)

②先生のお話

③「好きな～ (テーマ)」発表

④工作、ゲームなど

不安な気持ちは少なからず保護者も持っていたように思われたため、子どもたちが慣れ始めた5月には簡単に楽しめるクッキング形式で保護者の顔合わせを行い、保護者どうしの交流を深めることができた。子どもの楽しそうな姿に安堵した様子であった。

大久保中学校との交流会 (芋掘り) は、児童にとって毎年楽しみな行事である。今年も、10月に中学校の先生やお兄さんお姉さんが育ててくれたサツマイモ畑で芋を掘った。各小学校の卒業生と一緒に掘ってくれたり、保護者と一緒に活動できたりして有意義な時間を過ごすことができた。



5) 掲示物

たんぼぼの会では、月ごとにテーマを決めて工作を行い、その作品を支援学級掲示板に掲示している。

5月 柏餅 (子どもの日)

6月 自分だけの傘 (梅雨)

7月 短冊 (七夕)

9月 二学期の目標 (運動会含む)

10月 コウモリ、カボチャ (ハロウィーン)

11月 サツマイモ (芋掘り)

支援学級には多様な特性を持つ児童が在籍しているので、季節が感じられ尚且つ全員が参加できるような手軽な工作を中心に作成している。出来たら好きな色を塗る、好きな絵を描く、シールを貼るなど、自分なりの一工夫を加える事によって、全員の完成を目指しつつ、自分だけの作品を完成させる達成感を味わっている。

また、掲示されることによってお互いの作品の良さを感じ、支援学級以外の児童からもがんばりを認めてもらえる機会となっている。



6) 時間割

本校の時間割を作成する際に、専科などの教科の割り振りだけではなく、支援学級の在籍児童がスムーズに一日を過ごせるよう、教職員に以下のことについて理解を求めた。

1時間に入室する児童が著しく集中しすぎないように国語、算数などを午前中に振り分けた。肢体不自由学級在籍の児童が少しでも余裕を持って移動できるように、長休時後の3時間目に体育を設定したり、午後から音楽や理科など別校舎で行われる教科を連続して設定したりした。水泳や運動会練習期間は、該当学年の支援担当を決め、それ以外の教師で合科を行い、個人の学習時間を確保した。

7) 連絡帳

保護者との連絡を密にとるため、支援学級用の連絡帳を用意している。旧大久保小学校の保護者の何名かは、昨年まで毎日、児童と一緒に登下校をされており、顔を合わせて学校や家庭での様子を伝え合うことをしていた。しかし、統合にともない学校の場所が遠くなったことで、毎日の送り迎えが難しくなった方もいる。

学年が上がることの不安に加えて、統合で新しい人間関係が生じることへの不安感も強い保護者からは、不安な気持ちや子どもの様子の変化などが連絡帳に書かれていた。保護者の不安が和らぐよう、授業や休み時間の様子などを書いて、学校での姿を伝えた。毎日会えなくなった分、連絡帳でのやりとりが密になった。

旧東小学校の保護者の思いも同様で、毎年4月に新学年に進級する時に感じる不安に加えて、統合における新しい人間関係についての心配の声もあり、些細なことでも連絡し合い、子どもの行動をじっくりと観察するように努めてきた。

2学期に入り、保護者からの不安の声も少なくなっているように思う。

8) 各学年の児童や教師との交流

7月に1年生とたんぼぼ学級との交流会を実施した。1年生全体に向けて支援担当の教師が、以下の3つの話をした。

①たんぼぼってどんなところ？

勉強するところ、気持ちを落ち着かせるところ

②たんぼぼ学級のお友達

児童が学習しているノートを提示し、教室のみんなと同じようにがんばっていること、また進め方は、それぞれのお友達によって違うこと

③たんぼぼからのお願い

朝や帰りの準備や片づけなど、自分でできることは自分でできるように、周りの友達の見守りが本当の優しさ

児童からは、とても丁寧に書かれたノートを見て「すごい！ぼくよりうまい」と言った声が聞こえてきた。話の後、実際にたんぼぼ学級の教室も見て回った。

また、9月には5年生との交流会を行った。5年生の児童120名ほどの前で1人ずつ自己紹介をしたり、グループに分かれてサイコロトークをしたりして、仲良く遊ぶことができた。

3. 結果と考察

上記の方法で約半年間過ごした結果、当初心配された環境の変化に伴う様々な事柄も、全校児童や保護者の協力、教師の声かけとともに児童は乗り越えてきた。

例えば、たんぼぼの会では、挨拶の時に、発表した児童が自ら次の発表者を指名する形をとることでお互いの名前をすぐに覚えたり、それぞれの興味・関心を知ったりすることができ、ゲームや工作をともに経験することで、予想以上に早く打ち解けて、児童同士のつながりが深まったと考えられる。

さらに、統合することによって、人数が増え、仲間意識（同性や車いすを使用している等）が芽生え、安心感につながった。

そして、支援学級という小集団の中で、自分の思いを発言する機会をたくさん設けてきた結果、前向きに参加できる児童も増えてきている。

また、周囲の児童の様子としては、交流会の後にその学年なりに支援学級在籍の児童のことを理解した

上で、考えて行動できる姿が見られた。教室で、いつもたんぽぽの友だちの水筒を運んでいた子が、「たんぽぽからのお願い」の話聞いてから、運ぶのをやめて見守るようになったことや、学校内ですれ違った時に、声を掛け合う姿が見られた。

4. おわりに

統合することは、不安な要素ばかりではなく、むしろ一人一人が成長できる絶好の機会である、と半年たった今、そういえる。もちろん、教師は、先の見通しを立てて、場面ごとの様々なケースをイメージしておくことは必要だが、これまでを振り返ってみて、著しい環境の変化にも対応して成長していける力を児童一人一人が確実に持っていることを目の当たりにしてきた。

この力を維持し、着実に成長を積み重ねていけるように、支援学級で経験し自信がついてきたことに関して、今後、各学年や学級の中でも発揮できるように引き続き支援していきたい。そのためには、各学年の担任と連携を深めるとともに、周囲の児童との関わりを見守りながら、一人一人が大切な存在であることを学校全体が感じられるように接していきたい。